

第94号 主な記事

- 金融庁と意見交換会……………(1)
- 地方本部レポート(北海道・鹿児島) ……(2)



平成26年(2014年)5月15日
(第94号)
発行所 全日本不動産政治連盟
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町
3番30号(全日会館)
電話 03(3239)4461 F A X 03(3239)4463
発行者 直清
編集者 林秋山 始

金融機関による

中小企業の育成・経営改善の支援を強力に後押し

全日本不動産政治連盟

金融庁監督局と意見交換会

金融庁が昨年9月に公表した「平成25事務年度の中小・地域金融機関向け監督方針」に関連して、4月11日、日政連は金融庁との意見交換会を行った。

出席者は、金融庁側が監督局総務課長の西田直樹氏、総務課協同組織金融室長の石田清氏、銀行第二課地域銀行監督管理官の石井学氏の3名、日政連側が国会対策委員長山口敬一氏、国会対策副委員長の本多健幸氏、広報委員の本嶋重夫氏の3名。

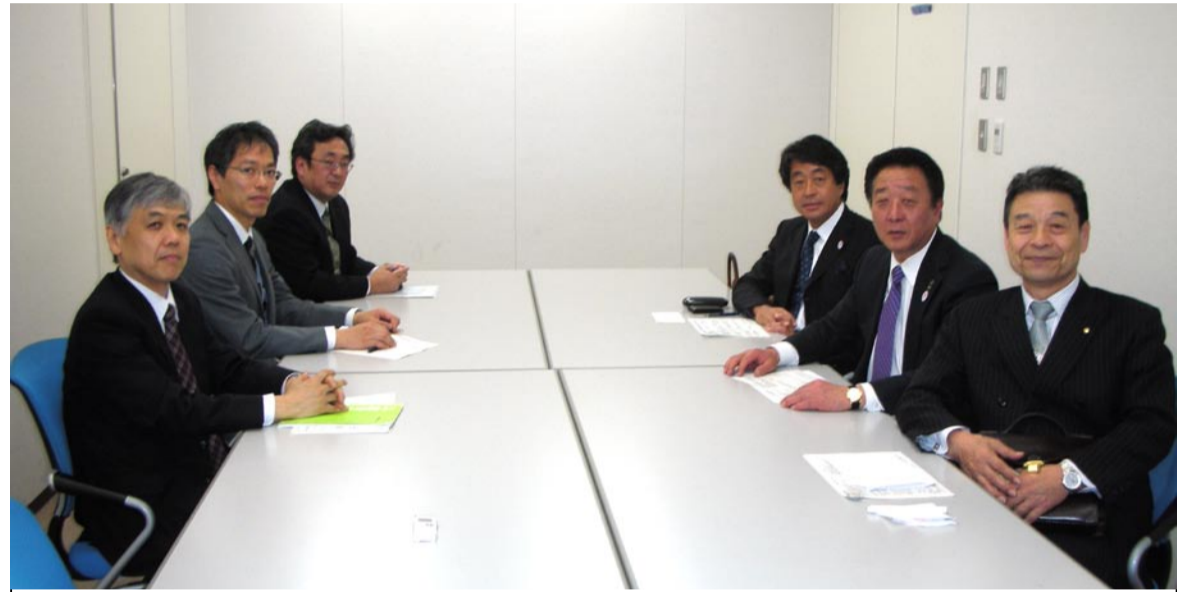
冒頭、山口国会対策委員長は、「監督方針が公表されて以降、金融機関の対応がだいぶ変わってきた実感がある」と挨拶、金融庁への謝辞を述べた。

新規融資の取組み促す

西田総務課長は、「昨年3月の金融円滑化法の終了後も、金融機関に対して、引き続き貸付条件の変更につながることも、中小企業の真の意味での経営改善につながる支援に軸足を移し積極的に取り組むよう促している」と述べ、本事務年度は、監督重点分野として、特に「中小企業の経営支援をはじめとした積極的な金融仲介機能の発揮」を掲げ、金融機関には顧客企業と向き合い、顧客企業の育成・成長を強力に後押しするという金融機関が本来果たすべき役割を一層発揮していくことが求められていることを、西田課長は強調した。

そして、こうした基本的な考え方を踏まえ、①成長可能性を重視した金融機関の新規融資の取組みの促進、②地域密着型金融の深化、③中小企業に対する経営改善支援等の3つの観点から重点的な監督を行っていることを説明した。

①の新規融資については、監督上の着眼点として、新規需要の掘り起こしや融資審査に当たってどのような工夫・取組みをしているか、新規需要の高まりが期待できる事業分野・地域の分析を行っているかなど13項目を示していること、③の経営支援については、本



【写真説明】

左・手前から西田直樹氏(金融庁監督局総務課長)、石田清氏(金融庁総務課協同組織金融室長)、石井学氏(金融庁銀行二課地域銀行監督管理官)
右・手前から本多健幸氏(日政連国会対策副委員長)、山口敬一氏(日政連国会対策委員長)、本嶋重夫氏(日政連広報委員)

事務年度は「中小企業の経営改善・体質強化の支援を本格化させる重要な1年」であると位置付けていることを強調した。

そして、借手の方々におかれても、今後の業況の見通しや事業計画・経営改善計画の内容を金融機関に具体的にきちんとして、それを基に金融機関と対話して欲しいと述べた。

本多国会対策委員長、本嶋広報委員からは、現場の取引での疑問点の質問が出され、質疑応答がなされた。

広島県本部が政経セミナー開催

「一人一人が県政に参加して」

平成26年3月26日、広島市中区基町のリーガロイヤルホテル広島において、全日本不動産政治連盟広島県本部主催の「日政連広島政経セミナー」が県本部顧問議員である広島県議会議員、自民党広島県支部連合会組織委員長砂原克規先生を迎えて開催された。

テーマは「県政よろず話」。

広島県政を①広島県の実情、②所属会派の考え方、③広島市の方向性についての3つのポイントで県の背景や国政との関係、議会の様子などを広島弁と冗談を交えつつ、多くの切り口でわかりやすく講演いただき、参加者は笑いながらも何度もうなずく場面があり、熱心に聞き入っていた。

また建築業界に営業マンとして10年間勤務された経歴を生かし、事業者にとって興味深い内容のお話もしていただいた。

講演会の中で県議が指摘した「県政を議会でまかせにせず、政治経済の流れを主体的にみることに」により一人一人が県政に参加する視点でみてほしい」という言葉を受け、参加した34名の会員は地域のまちづくりを担う不動産業者として傍観視せず、積極的に声を届けて行くことと確信した。



講演する砂原克規広島県議

地方本部レポート寄稿のお願い

日政連広報紙では、各地方本部に所属する会員の皆様に対して、地方本部活動の状況や成果をお伝えし、日政連をより一層身近に感じていただくため、引き続き幅広く地方本部活動を掲載します。

つきましては、地方本部レポートへのさらなるご協力を今後ともお願い申し上げます。

(広報委員会)

宮城県本部 宅建業法改正の勉強会

平成26年4月28日、宮城県本部会議室に於いて、顧問の衆議院議員・秋葉賢也氏を講師に招き、宅建業法改正の法律案を改正する法律案「改正のポイント」と題する勉強会を開催した。

その中心は「宅建建物取引主任者」を「宅建建物取引士」に変更するという内容。

多くが望んでいたことでもあり、会場は大いに盛り上がり皆真剣に聞き入った。

自民党議連の現状を伺い、今国会で何とか通す

講演会終了後には、砂原議員ならびに県本部顧問弁護士の三崎和也氏も交え懇親会を行った。砂原議員を囲んでなごやかに談笑しながらも、県議に質問したり、互いの地域の課題を議論しあうなど盛会のうちに終了した。

砂原議員が掲げるセツト「この仕事を通して社会に貢献できるか」という言葉は政治家のみならず、県民の生活の場を提供する私達不動産業者にも通じることがある。平和都市・広島をこれからも支えていくために、日政連広島県本部も力を合わせ県政に声を上げていきたい。



また、議員は東日本大震災復興特別委員長という立場でもあり、私たちの関心事である復興の現状について様々な質問に対応いただいた。

北海道・鹿児島県 両本部

地方本部からの活動レポート

岩切薩摩川内市長に聞く

鹿児島県本部



岩切秀雄薩摩川内市長(右)と福山修鹿児島県本部長(左)

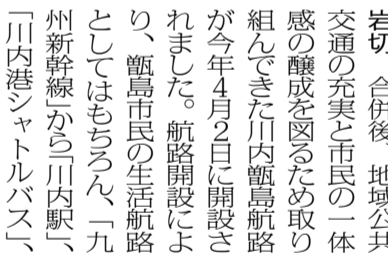
薩摩川内市は、平成の大合併で最初に生まれた市。日政連鹿児島県本部は、合併後2年目で現在

2期目の岩切秀雄市長を
表敬訪問した。(聞き手・
福山修鹿児島県本部長)
福山 今、岩切市長が一

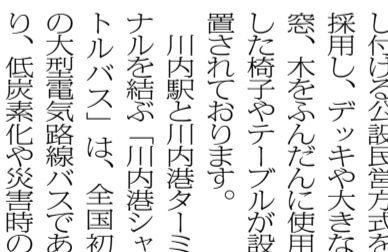
岩切 本市は、現在、原子力発電所の長期運転停止、企業撤退により、地域経済や雇用環境が厳しい状況にあります。そこで、「次世代エネルギーの推進」、「農林漁業の六次産業化の促進」、「観光産業の振興」を3本柱として、新たな産業振興に向けた取り組みを進めています。



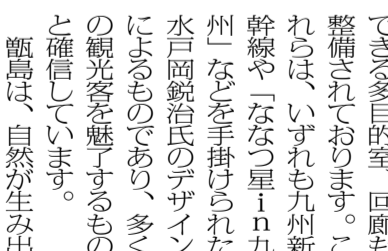
「次世代エネルギーの推進」では、昨年3月、次世代エネルギービジョンを策定し、次世代エネルギーの積極的な活用や推進、電気やガスを含めた既存エネルギーの賢



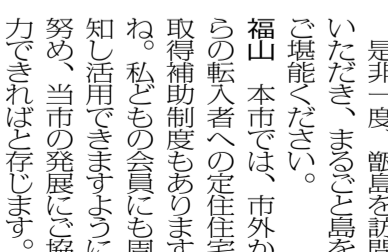
「観光産業の振興」で
「農林漁業の六次産業化の促進」では、今年3月、六次産業化基本計画を策定し、意識啓発や人材育成など具体的な事業に取り組むこととしております。



「高速船甌島」は、市が建造して甌島商船に貸し付ける公設民営方式を採用し、デッキや大きな窓、木をふんだんに使用した椅子やテーブルが設置されております。



「川内港ターミナル」は、全国初の大型電気路線バスであり、低炭素化や災害時の



電源車にも活用できる多機能バスです。福山 私たちもスマートタウンは継続研究のテーマとしており、この電気バスの活用は共通するところがありますね。



福山 本市では、市外からの転入者への定住住宅取得補助制度もありますね。私どもの会員にも周知活用できますように努め、当市の発展にご協力できればと存じます。



まちづくり座談会 空き家対策で札幌市とタッグ

北海道本部

日政連北海道本部は、空き家対策について、札幌市長の上田文雄氏と札幌市都市局長の高橋稔氏にお話を伺った。聞き手は、細井正喜北海道本部長。

細井 近年、空き家の問題が新聞紙上などをにぎわすことが多くなりまして、札幌市における空き家の現状はどのようになっていますか。
上田 平成20年の「住宅・土地統計調査」では、市内の空き家は約13万6千戸とありますが、これはほとんどが賃貸用などを含む集合住宅で、戸建ての件数は約1万1千

ごみ・不法投棄など多岐にわたることがわかりました。また、地域からみると、市民の安全にかかわるような倒壊のおそれのある危険な空き家については、市の積極的な対応を求める要望が多く、市が実効力のある対応を取ることができるようになるための法律や条例が必要という意見が多く寄せられています。



上田文雄札幌市長

細井 そのような地域からの声を受けて、今年度、都市局に空き家対策を検討する専門部署を設置したとかがついています。都市局ではどのような対応を進めていくのですか。
高橋 まずは、市民要望

「川内港ターミナル」、「高速船甌島」と甌島までをひとつの観光ラインとして結び、市内外からの観光客など交流人口増加により、観光産業の振興が図られ若者が定住する島になることを期待しています。

岩切 「川内港ターミナル」は、銅板葺きの屋根など教会をイメージした造りになっており、待合スペース、売店・カフェに加えイベントにも活用できる多目的室、回廊も整備されており。これは、いずれも九州新幹線や「ななつ星in九州」などを手掛けられた水戸岡鋭治氏のデザインによるものであり、多くの観光客を魅了するものと確信しています。

岩切 「川内港ターミナル」は、銅板葺きの屋根など教会をイメージした造りになっており、待合スペース、売店・カフェに加えイベントにも活用できる多目的室、回廊も整備されており。これは、いずれも九州新幹線や「ななつ星in九州」などを手掛けられた水戸岡鋭治氏のデザインによるものであり、多くの観光客を魅了するものと確信しています。

岩切 「川内港ターミナル」は、銅板葺きの屋根など教会をイメージした造りになっており、待合スペース、売店・カフェに加えイベントにも活用できる多目的室、回廊も整備されており。これは、いずれも九州新幹線や「ななつ星in九州」などを手掛けられた水戸岡鋭治氏のデザインによるものであり、多くの観光客を魅了するものと確信しています。

の検討委員会を設置する予定で、委員会のご意見を伺いながら、この基準を検討していく考えです。一方で、規制的な方法だけでは解決が困難なことから、所有者自身による対応を促進するためにも、空き家の撤去費を助成する制度などの検討も併せて進めてまいります。

細井 空き家対策においては、危険な状態にまでならないような予防的な対策も必要だと思われませんが、いかがでしょうか。
上田 おっしゃる通り、空き家対策においては、まだ十分に使えるのに使われていない空き家を活用するための取組み

重要になると考えています。今後は、空き家のさまざまな活用についても考えていかなければなりません。市民や職員が創造力を発揮してアイデアを出し合い、組織横断的な体制を構築して対応していくことが必要となります。今後、札幌市においても人口が減少していくことが見込まれており、ま

細井 市長の意見に同感です。私どもの専門性を活かし、協力できる点については、是非、協力していきたいと思えます。



細井正喜本部長

上田 空き家問題の解決に向け、皆様のご協力をいただきながら対策を進めていきたいと考えておりますので、今後とも、よろしくお願いたします。